



歴史あるスケート文化の更なる発展のために

～オリンピックを目指す子どもたちの希望に～

全国的にアイススケート場が閉鎖していく中、昭和57年に開設された「県営ハケ岳スケートセンター」は、利用者の低迷や設備の老朽化などを理由に、令和2年度廃止の方針が表明されました。地元住民や競技団体関係者から、存続を求める署名運動が行われたことから、地元北杜市と管理者山梨県は、存続に向け協議し、県からの施設譲渡及び連携の協定を取り交わし、令和4年度より、市の施設として運営することとなりました。これまで、「ハケ岳スケートセンター」は、山梨県や近隣県などから、冬季のレクリエーション施設として利用されるとともに、オリンピック選手を目指す子どもたちの練習場としても使用され、山梨県のスケート文化の一翼を担ってきました。



スケート大会にて競う子供たち

【山梨県知事と北杜市長の調印式】



今後北杜市は、冬季だけでなく周辺施設も含めた年間利用、活用を検討し、山梨県と連携しながら存続に向けたプランの策定を目指しています。ハケ岳スケートセンターの存続は、練習拠点とする将来のメダリストを目指す子どもたちに夢と希望を与えます。子どもたちの夢やスケート文化の更なる発展のために、本事業に賛同いただける企業様をお待ちしております。



親子スケート教室